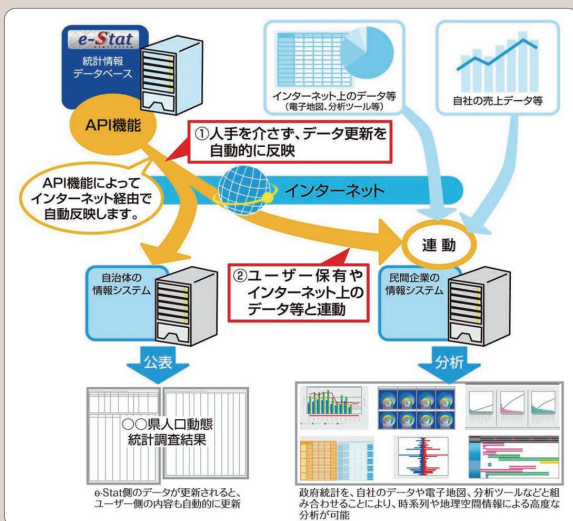


総務省統計局及び独立行政法人統計センターでは、統計におけるオープンデータの更なる高度化を図るため、大量・多様な統計データの高度利用を可能とする以下の取組を先導的に実施しています。

## ① API<sup>※1</sup>機能による統計データの高度利用環境の構築

e-Statに、新たにAPI機能を付加し、e-Statの統計情報データベースに登録されている統計データを機械判読可能な形式で提供することで、次のようなことが可能となります。

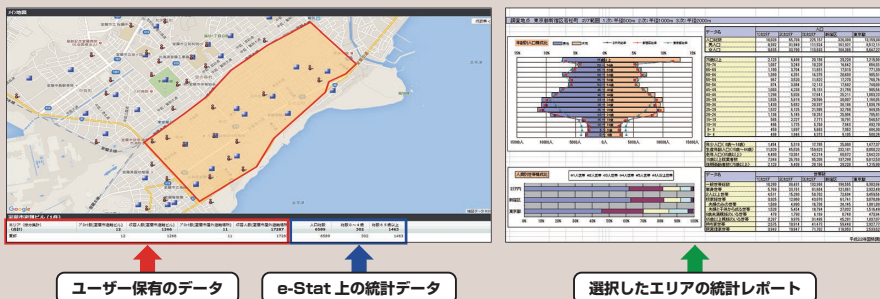
1. 利用者の情報システムにe-Statのデータを自動的に反映
2. ユーザー保有のデータやインターネット上のデータ等と連動させた高度な統計データ分析



※1 API(Application Programming Interface):手作業によることなく、プログラムが自動で統計データを取得できる機能

## ② 統計GIS<sup>※2</sup>機能の強化

e-Statに、利用者の保有するデータを取り込んで分析する機能や指定したエリア内の基本的な統計情報のレポートの作成機能を持ったシステム「地図による小地域分析 (jSTAT MAP)」を追加し、統計GIS機能を強化しました。



※2 GIS(Geographic Information System): 地図データと統計データや空間に関する情報などを統合的に扱う機能

API機能及びjSTAT MAPは、e-Stat (<http://www.e-stat.go.jp>) から利用登録すれば、どなたでも利用可能です。